

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0171600265		
法人名	有限会社 グループホーム・和		
事業所名	グループホーム・なごみ		
所在地	〒043-0023 桜山郡江差町字田沢町492番地3 (電話) 0139-54-5753		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年4月20日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10人, 非常勤 8人,	常勤換算9.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	17名	男性 1名	女性 16名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	4名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 80歳	最低 64歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道立江差病院・医療法人恵愛会佐々木病院・カモメデンタルクリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の母体法人は、地域のニーズに応えるため江差町の2つのグループホームと高齢者下宿、小規模多機能型グループホームを運営している。事業所は各所でつながっている構造で、もう一方のグループホームにある温泉施設の利用や行事等で連携し、サービスを提供している。職員は、家庭的な雰囲気の中で利用者の尊厳を重視し、リハビリや楽しみごとで個々に応じた場面づくりを行っている。町や地域との協力関係を構築し、利用者の豊かな生活支援につながっている。また、職員のチームワークが良く、馴染みの職員による安定したケアを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己、外部評価で共に改善課題としてあがった同業者との交流を通じた向上では、事例検討を交えた学習会開催を視野に入れ、取り組みに向け検討中である。重度化や終末期に向けた方針の共有では、その都度関係者間で最善策を協議しながら方針の共有化を図ることとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は毎日の職員シフトの中で、職員がペアを組んで項目を分担し、意見交換を行いながらシートに記入したものを管理者がまとめている。管理者と職員は、評価の意義やねらいを理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度、同一法人が運営しているもう一つのグループホームと合同で開催している。会議では、家族、地域町内会、地域老人クラブ、介護保険課職員、社会福祉協議会職員、事業所の代表者がメンバーとなり、利用者の状況やサービスの現状を報告し、町の高齢福祉について率直な意見交換を行い、町民福祉の安定や推進について話し合っている。今後、利用者が重度化に向かう中、地域とどのように協力し合い、サービスの安定につなげていくかを会議で議論する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族と接する機会では、利用者の現状や事業所の様子などを報告している。家族会が設置され、全体及び個別に意見や意向を表出する機会を確保し、ケアサービスの内容について意向を受けた場合には、全体会議で検討し望ましい支援の方策を検討するなど、運営に反映させている。また、内、外部に苦情相談機関を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とは一般家庭と同様の付き合いが深まっている。地域住民は、散歩や寺参り、農作業帰りに気軽に事業所に立ち寄り、利用者と茶菓を共にしたり、除雪をするなど、良好な関係を構築している。また、踊りや三味線のボランティアの訪問、保育園との相互交流なども行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時にグループホームの意義や役割についての職員研修を実施し、運営理念は、その研修内容から抜粋してつくりあげている。運営理念に基づく介護理念を合わせて明文化しており、事業所独自の地域密着型サービス提供の方針を標榜している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の尊厳ある暮らしを根幹に据え、最善のケアがどのようにあるべきかをミーティング等で検討している。毎朝のミーティングで、職員間での意見統一や話し合いを行いながら、具体的なケアの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住民からの様々な応援やふれ合い活動が多く、踊り、三味線、除雪等のボランティアや畑の収穫物の差し入れなど気軽な訪問を受けている。町内会との協力体制や保育園との相互交流も構築しており、事業所は、近所付き合いや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組み、利用者の豊かな生活支援に結び付けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は評価の意義やねらいを理解しており、自己評価を全体で実施することで、サービスの現状や職員個々の考え方について話し合っている。毎日の職員シフトで職員がチームとなり、項目を分担し意見交換を行いながらシートに記入後、運営者がまとめている。外部評価であがった課題については、事業所として望ましい方策を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、家族、地域町内会、地域老人クラブ、介護保険課職員、社会福祉協議会職員、事業所の代表者が構成メンバーとなっている。会議では、利用者の状況やサービスの現状の報告、サービス評価の開示を行い、内容について意見を交換している。会議で取り上げる議題の固定化が課題となっているが、次回は、地域と歩む運営を継続しながら、利用者の重度化に合わせたサービスの向上について、会議で意見を仰ぎたい考えを示している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営や現場の実情等を伝える機会を確保し、様々な案件を通じて町の担当者に発信しており、町と事業所が推進役として連携を図りながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行している事業所便りでは、利用者の生活の様子を写真やエピソードを交えて発信している。健康状態や金銭については定期的及びその都度報告をしている。事業所からの個別便りや利用者の直筆の手紙なども送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を表出できる仕組みを作っている。また、面会時や電話の際など、家族と接する場面では、意見や意向を聞くことを大切にしている。出された意見は家族連絡シートに記録し、ミーティングや全体会議でより良い方策を検討している。内、外部に苦情相談機関を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	調査時点までの3年間は法人内異動を行わず、開設時からの離職については、やむを得ない事情による僅かの人数となっている。当事業所は、法人が運営するもう一つのグループホームと連絡通路でつながっていて、互いに連携している。また、当事業所内のⅠ・Ⅱユニット間で支援の連携を図り、顔馴染みの職員によるケアが行き届いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部研修への参加を積極的に促しており、遠方での研修も年に2～3人受講し、研修後は報告書をもとに全体会議で伝達研修を行っている。毎月1回の内部研修では、テーマ学習に利用者の疾患や状態を照らし合わせた事例検討を盛り込み、働きながら日々の体験を学びにつなげていく機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江差町には当事業所の母体法人が運営している2つのグループホームしかなく、地域において他法人同業者との交流が図れない状況である。外部研修で職員が地方を訪れた際に、他の事業所の見学を行うことがある。運営者は、現場で働く者同士が集まり、意見を交換することの重要性について認識をしている。	○	同業者との交流については自己評価でも課題としてあがっており、同業者間で勉強会を開催するなど相互交流を実現したい考えを示しているので、今後の取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始を相談する時点から家族の不安に配慮し、個別の事情に柔軟に対応し、対応した内容は受付相談簿に記録し職員間で共有している。家族や本人の見学、事前の体験利用や本人が入院している病院、自宅を訪問するなど、個別に利用調整を行っている。特に、利用開始後1週間は基本的な生活を見守りながら、医療支援の必要性についても看護師のアドバイスを受け把握に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々の関わりの中で利用者から学ぶことが多い。また、回想法での昔話や寸劇等を通じて利用者の思いや考え方、生活の様子を把握するよう努めている。清拭や排泄、入浴支援などで、利用者が職員に労いの言葉をかけるなど、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の言動や表情から思いを察し、茶会等で和む雰囲気づくりをしながら、その時々利用者の意向をできるだけ引き出すように取り組んでいる。把握した内容はアセスメントにつなげ、利用者本意のものとなるよう介護計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式及びMDSというアセスメント方式を活用してアセスメントを行い、検討しながら、利用者の生活を支える介護計画作成に取り組んでいる。利用者担当の職員が介護支援専門員と共に計画を立案し、医療関係者のアドバイスや家族の意向について、より良い方策を検討して盛り込み、計画書の作成に至っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状をミーティングで共有し、状態に合わせた支援に取り組み、毎日の経過を記録してアセスメントやモニタリング、サービス担当者会議につなげている。介護計画は期間を明示し、期間毎及び状態変化時に見直しを行い、現状に即した内容としている。ケアマネジメントの一連の過程や仕組みについて、より良い内容となるよう検討しつつある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は地域住民の訪問が多く、地域交流の場を担っている。また、通院や図書館利用、温泉入浴など、家族や本人のニーズに柔軟に対応した支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用の際はこれまでの受診状況を把握して、医療機関受診に関わる案件や課題について十分話し合いを持ち、本人や家族の同意や納得が得られる対応を行っている。協力医療機関と連携し、他の医療機関受診時も連絡票を活用して家族や医療機関との情報の伝達に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者一人ひとりの既往疾患に対応する個別の緊急時体制や医療早期受診項目を記録するなど、利用者の変化に即座に対応できるようにしている。利用者の状態変化時や重度化が進んだ段階において、主治医、家族等との関係者間でその都度話し合いを行い、最善策を検討しながら方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は事務室に適切に保管し、秘密保持や個人情報保護について契約書に明示し、それらの取り扱いに留意している。利用者への何気ない言葉かけや語調、接遇が誇りや尊厳を傷つけ損ねることがないように、ミーティングで話し合い、確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のおおよそのスケジュールはあるが、利用者の希望する過ごし方ができるよう健康面の配慮も行いながら柔軟に支援している。レクリエーション活動への参加やテレビ観賞、就寝時間など、職員は本人の望むペースに合わせ、利用者の自由で安心した暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜や野菜の収穫、準備、調理、後片付けなど、食事に関する一連の作業を利用者のできる範囲で一緒に行い、力を発揮する場面としている。旬の食材利用や外食、祝い膳、行事食など食事に変化をつけ、楽しみなものになるよう取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の状態を見極めながら希望に応じて対応し、最低週2回の入浴や必要時に清拭を行い、清潔保持に努めている。同一法人が運営している事業所にある温泉や時期により足湯に出かけている。浴室への誘導は声かけを工夫するなど、安心して入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事の役割のほか、習字や縫い物、体操など活力を引き出す楽しみごとやレクリエーション活動を提供している。花札やトランプなども個々のプライドに配慮しながら支援し、収穫祭ではジャガイモの植付を寸劇で披露するなど、一瞬一瞬を楽しむことを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は冬場以外積極的に行っており、天候等で外出が困難な場合は、室内で外気を感じられるよう工夫している。風車見学や山菜採り、花見など、四季を堪能したり五感を刺激することを配慮し、利用者の希望や状態に応じて外出を楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	Iユニット玄関を両ユニットで普段使用し、日中は開錠している。利用者が外出しようとした際は、本人が納得するまで一緒に出かけ、道のりや利用者の状態により車両応援を求め、職員間で連携を図り、自由な出入りを保証している。近場に田や川があるので、安全のため、職員申し送り時は一時的に施錠する場合がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中帯を想定した実践的な火災避難訓練を実施しているが、夜間想定の実践的な訓練については早急な取り組み課題としてあがっている。災害マニュアルや緊急連絡網を整備し、スプリンクラーを完備している。地域住民との連携強化については、検討を行っている。	○	災害は、どの時間帯で発生するか分からず、夜間帯においても利用者の安全確保と避難誘導の方法の習得が必要である。早急な夜間想定の実践的な訓練や災害種別に応じた訓練、災害備蓄品の確保など、地域防災についての視点も考慮し、災害対策の強化に取り組むことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1日1,000～1,500CCを目途に支援し、毎食量と共に摂取量を記録して、過不足に留意している。献立は、職員が病院の栄養士の作成した内容を参考に作成している。今後は、保健所の栄養士と連携を図り、食事のバランス等の指導を受ける計画である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式のキッチンと一体になった広いリビングダイニングルームは、利用者、職員、訪問者が共に過ごせる空間となっており、長椅子のコーナーから自然の景色が目に入り、四季を感じる落ちついた雰囲気である。利用者の身体機能に応じて、面積の違うⅠ、Ⅱユニットの浴室を相互に使用し、玄関にはスロープを設けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ利用者が使い慣れた家具を持ち込み、馴染みの生活用品や大切にしている品々を傍らに置けるようにしている。備え付けのクローゼットは、日用品や衣類などを収納しやすく、利用者の状態に応じて、使いやすい居室になるよう工夫している。		

※  は、重点項目。